

Excel 快速 お仕事術

満載!
業務に役立つ
実用テクニック



牧村 あきこ
MAKIMURA, Akiko

第 2 回

顧客別の請求書を ワンクリックで作ろう

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
Excel 2000/2002

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥EXCELディレクトリに収録しています。

・売上管理.XLS
今回作成したサンプルアプリケーション



はじめに

Excelで作成する定番のビジネス文書といえば、「請求書」がまず思い浮かびます。Excelで管理する売上データから請求書や見積書を作成する一連の過程には、Excel特有のレイアウト的な扱いづらさや印刷面での弱点を補ってあまりあるさまざまなメリットがあります。

特にルーチンワークともいえる、定期的に売上データから顧客別に請求書を発行するような作業は、プログラム化しておく便利です。

今回は、データベースに蓄えられた売上データから顧客別の売上を抽出し、そのデータを1シートごとの請求書として新しいファイルに出力するプログラムを作成します。この過程で、シートや異なるブックファイル間でデータをコピーする方法など、知っておきたい基本テクニックを解説してゆきましょう。



プログラムの全体イメージをつかむ

最初に、今回作成するプログラムの具体的なイメージをつかんでおきましょう。実際に売上データを管理する場合には、データとプログラムを別ファイルとして分けることも多いのですが、今回は便宜上、図1のような仕組みにしました。

売上データを管理している「売上.xls」ファイルには、各月の売上データを収めたシートと請求書のひな形となるシートがあるものとします。任意の月の売上シートを選択しプログラムを実行すると、その月の売上の中で顧客別に売上を集計し、別ファイルとして請求書を作成します。今回の例では、「10月売上」シートを選択してプログラムを実行すると、「10月売上請求書.xls」という名前のファイルが作成され、そのファイルには顧客別の複数の請求書シートが含まれる

